

人権啓発作品を
紹介します



人権作文 最優秀賞

中学生の部 河南中学校 二年
山口 真実さん

「職業体験を通して」

「赤ちゃんや、園児ってかわ
いいな。」

私が、職業体験で保育園に
行って、一番感じたことです。
職業体験をするという話を聞
いた時、真っ先に「醒井保
園で仕事がしたい。」と思いま
した。私が通った保育園であ
り、以前から「保育士になり
たい。」と思っていたので、体
験先が醒井保育園に決まった
時は、とても嬉しかったです。
0歳から六歳まで色々な年
齢の子と触れ合うことができ

ました。0歳の子はまだ話せないけ
れど、欲しいものがあると目や体全
体で伝えようとします。あげると私
の目をじっと見て「ありがとう。」と
言っているように見えました。

お昼寝の時に、体をトントンと軽
く触りながら寝かせると、すうっと
静かに寝てしまいました。安心しき
った寝顔を見ると、何とも言えない
愛しさが生まれてきました。

おむつ替えの時は、「できるだけ早
く替えてあげたい。」という思いで、
おむつの汚れも気になりませんでした。
すっきりすると笑顔で駆けだす
姿もかわいかったです。

一歳を過ぎると、言葉数も増えて、
抱っこやおんぶ、遊具遊びを求めて
私に寄ってきます。抱っこが続いて
暑いと感じる時もありました。また、
一度に六人の子のブランコを押して
落ちないよう気を遣ったり「もつと
高くして。」という思いに比べようと
したりして、大変な時もありました。
でも、園児の笑顔を見ると疲れやし
んどさも吹き飛んでしまいました。
職業体験の日々は、毎日がハッピー
で一日が終わると「早く明日も会
いたいな。」と思うほどでした。私が園

児のお世話をすると思っていました
が、逆に、私が園児からパワーをも
らっていたのかもしれない。小さ
くてもしっかりと挨拶や意思表示が
でき、自分のことは自分の力でする
姿は、私の想像とは違って驚きと感
動を覚えました。子どもたちが健や
かに育つには、周りの人たちがその
気持ちに寄り添って必要な手助けを
することが大切だと感じました。

しかし、近年子どもの虐待や殺害
が絶えません。先日も、トイレのこ
み箱に生まれた赤ちゃんを殺害
して捨てたという事件があり、私は
胸が痛くなりました。一番かけがえ
のない大切な存在である母親に殺害
されるなんて…。私はその母親に
「お腹を痛めて生んだ子なのに、どう
して殺すの。生んだ限りは責任を持
って命を守ってあげることが大人の
役割なのに。」と伝えたいです。また、
この赤ちゃんや母親の家族や知人は、
何か手助けをできなかったのか、母
親のSOSに気づけなかったのかと、
とても悔しい思いがします。やはり、
この母親にとって地域や社会で気の
休まる場所や相談できる場所はな
かったのかと、とても残念です。ここ

か一つでも心の支えになる場所
があれば、こんな悲しい事件は
起こらなかったと思います。人
と人のつながりが薄らいでいる
ような気がしてなりません。

人は、この世に生まれた時か
ら人権があり幸せに生きる権利
を持っています。虐待や殺害と
いう悲しい原因で、権利がうば
われる世の中であってはならな
いと思います。私が出会った園
児のように、子どもたちの笑顔
が満ちあふれる世の中であって
ほしいと願います。そのため、
保育士という夢を実現し、子ど
もたちが安心して過ごせるよう
に、思いやりの心を持てるよう
に手助けしていきたいです。

